

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループ2)

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県飽海郡遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 20 日	開設年月日	平成15 年 9 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 27年 9月 25日	評価結果決定日	平成 27年 10月 19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心した生活が続けていけるように、その人らしさを大切にしっかりと理念に掲げ常に実践に向けて支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例の子供神輿の来所を楽しみにしている。施設の夏まつりでは、地域の子どもたちが参加してくれ利用者との交流を深めている。又、小学校帰りの子供たちが「トイレ貸して下さい」と駆け込んで来るなど常にホームは開かれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の認知症サポーター養成講座を包括支援センターと共催し、地域住民の参加をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的開催し、地域住民 町内会長 民生委員、包括支援センター、町役場等皆さんの参加をいただき、お互いに情報交換やアドバイスをいただいている。議事録は全職員に伝達している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議への出席はもとより、役場の窓口には随時伺い、利用者様の状況報告をしたり情報の共有化に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	介護理念の中にかかげた「拘束のない介護」を目指し、職員が外部研修や施設内研修への参加により 学習、伝達 共有することで拘束をしないケアを実践している。無断外出による徘徊や転倒防止の為に玄関等に風鈴等を利用し、出来るだけ工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修ではホーム長を講師として、どんな時に虐待が起こる可能性があるのかを全職員で学んだ。小さな気づかないような虐待も起さないような職場の環境作りのために、些細なことでも職員同士で話し合いを持ち、どんな虐待も起さない取組をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の利用者様がいらっしゃるもので、内部研修や職員会議での報告を実施している。毎月訪問される支援員との関係も良好である。権利擁護のパンフレットはいつでも見ることができるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前のご家族様に対し、契約書 重要事項説明書を読み合わせしながら丁寧に説明している。拘束をしないケア実践に取り組んでいるので、転倒や予期せぬリスク等についても説明し、ご理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当者の明記やご意見箱の設置により、ご意見をいただくようにしている。運営推進会議等でも出席者からの意見に耳を傾けその都度対応する事としている。家族の面会時でも自由に職員へ声を掛け 要望や意見を話やすい雰囲気や環境作りを心がけている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見発表の他にも 随時気づいた時にホーム長や管理者へ意見を提案し検討してもらっているようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や資格の有無だけの評価ではなく、日ごろの努力や仕事に対するやる気を昇給や賞与に反映させている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修会に参加する機会を設けていただき受講者は伝達研修等で発表し、報告書を全職員に回覧することでスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会への加入により、研修会等を通し他施設との情報交換や意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様が不安にならないように、ゆっくりと説明し、要望等しっかり聴き受け止めるように対応している。見学の場合でも、普段の様子を見ていただき、雰囲気を感じていただければと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていた事、不安なことや要望を伺い、施設での対応が可能な部分をご理解いただき、ご家族 利用者様の思いにズレが見られる時は お互いに歩みよりが出来るように支援させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議で ご本人 ご家族、他サービス事業所、関係者同士が話し合い、ご本人の希望を踏まえた必要なサービスが受けられるようしっかりと見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの風習やことわざ、歌謡曲を教えていただき職員の知らないことをたくさん学ばせて頂き、良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族へは、近況報告を手紙やハガキ、FAX等でお知らせしている。随時 面会にお出でいただける環境にあるご家族へは、ゆっくりお話出来る環境を提供し、ご家族の絆を大切にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の友人担当の民生委員やケアマネジャー等関わりを大切に、随時面会いただくようにしている。又、地域の床屋さんの出張理容等で、古くからの顔なじみの関係が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごす時は、利用者様同士家族のような雰囲気であり、個人個人の性格に合わせ隣同士の席を配慮したりと居心地の良いように環境整備している。利用者様同士の助け合いや交流も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等でやむなく退居となる方もいらっしゃいますが 退院後のサービスりようについては、ご家族、医療関係者と共に相談に応じサービス利用につなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者様との会話や要望、訴えを聞き、一人ひとりの思いをくみ取りプランに反映できるよう努めている。ご家族へもプランを通して伝え、協力をいただける部分はお願している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時にご本人様ご家族より、これまでの生活の様子を伺い、しっかり把握し、職員間でも情報を共有しご本人様の理解につながるよう努めている。又、入居後でも、面会の友人より昔のことなどをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、食事や水分量 排泄状況の記録だけでなく、日々状況を職員間で共有し変化の見られた時は、申し送りノートを活用し全職員で周知する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成は、担当スタッフを中心にユニット毎に会議を持ち、利用者様の希望 ご家族の意向を伺い作成。又、利用者様の行動から好む事、物などの把握に努めプラン作成の参考にしている。6ヶ月毎に見直しを実施、達成 変更 継続の評価をする。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個別の経過記録簿を活用し、個人の様子を記録している。特別な変化や受診結果 薬の変更情報は申し送りノートで職員間の情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が入居前まで利用されていた、理容、美容院に出かけたり、出張理容を依頼したりして継続してもらっている。入居前の町内会長や民生委員などの面会もある。入居後は地区区長、近隣住民より避難訓練など参加いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望でかかりつけ医を決めていただき、受診付添は状況の分かる職員が対応している。ご家族が付添可能な時は、情報提供の手紙を持参いただいている。主治医との連携は良好である。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が看護職員として勤務していることから、利用者様の急激な体調の変化には、すぐに対応できる状況。迅速な連絡、処置及び受診ができるよう指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居中の情報提供を行い、状況を確認していただいている。ご家族、医療機関と連携し、病状の確認や退院にむけての相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の病状 身体的な変化により重度化された時は 利用者様、ご家族へ 当施設で対応できる範囲の内容を十分に説明しご理解をいただいている。尚、入院や他施設への入所申請の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生への対応について、マニュアルを基に全職員を対象に研修会を行っている。転倒等の事故発生時には、当日の内に対応が間違っていなかったか、カンファレンスを行い、再発防止に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練で、避難誘導、初期消火、通報連絡訓練を実践的に行い参加出来なかった職員には文書にて回覧し防災意識を高めるようにしている。近隣住民の参加もいただいている。地震、水害等の災害訓練については、職場内研修や外部研修を受けており、マニュアルの熟読も行っている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護条例や守秘義務の重要性について全職員を対象に職場内研修会を開き、日常の関わり方で個人個人の人格を尊重した声掛けの対応を心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で常に職員とのコミュニケーションはよく取れていて、希望も不満も自由に話せる雰囲気になっている。本人への介助の前には、必ず声掛けし、確認を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的に大まかな時間配分はきまっているが、本人の体調や気分に合わせて支援が可能な状況にあり、居室で休まれたり、起床時間や就寝時間には、個人差がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む衣類の選択や理・美容院への外出等自己決定出来る方は希望を叶えられる状況にあり、職員と一緒に着替えを選んだり、出張美容院からのカット等で身だしなみや、おしゃれを楽しまれている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の美味しい匂いを感じながら、配膳の様子をみながら、一同揃って頂くことで食事の楽しみを持ってもらっている。たまに食欲不振の利用者様への声掛けや食事形態の工夫により、支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量を記録し、個人個人に合った食事形態を工夫し提供している。月1度の体重測定を行い体調管理に努めている。水分摂取量の確保に個人的に声掛け促し時間をかけて摂っていただくように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回の歯磨きは職員と一緒に付添最後の仕上げまで確認し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムの把握により、定時、随時でのトイレ誘導で排泄介助を行っている。さりげない言葉かけで誘導し、失禁の軽減に努めている。身体機能の状況により、夜間ポータブルトイレの利用者もあり、なるべくおむつ使用は軽減できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認をしっかりと行い意識的に手作りヨーグルトを提供し、便秘予防対策を行っている。やむを得ず処方薬の下剤服薬で対応する場合もあるが、その場合でも、薬だけに頼らずにできる限りの対応で排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴介助時は職員との大切なコミュニケーションの場となり、時には歌声が聞こえたりと楽しみの時間となっている。その日の体調や本人の希望によって入浴日や時間の変更もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングでのうたた寝や午後のお昼寝タイム等個人個人に合わせた休憩の方法で皆さんゆっくり休まれている。夜間寝付かれない方に対しては夜勤者対応でリビングでひと時を過ごしてもらうこと等もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬剤情報に基づき職員は用法、用量、副作用等について、しっかりと把握している。飲み忘れや誤薬のないように職員同士の声掛けで対応し防止に努めている。薬変更等については本人の状態の変化を見落とさないようにしっかり観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のできる範囲内での役割(お皿拭き、洗濯物たたみ)等を毎日の日課として職員と共にコミュニケーションを取りながら行われている。レクタイムの軽体操やゲーム等みなさん喜んで参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの季節で桜、菜の花、はす、ソバの花と近くへミニドライブを楽しまれている。本人希望で可能な限り町内のショッピングセンターへの買い物等の支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来て所持金のある方は少なく、福祉サービス利用者様等は事務者管理で、こづかい帳記入し確認いただいている。職員付き添いで買い物に出かけた場合には、立て替え払いであっても、本人が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話等は本人自身がかかけたり、うけたりできるように支援している。暑中見舞い、年賀状等代筆であっても、家族へ写真等を入れて差し出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はリビングを中心にそれぞれが配置されており、常に開放的である。トイレ表示は判り易く印されており迷いのないよう配慮されている。リビングの壁面には、利用者様と一緒に装飾物を手作りしたり、行事や、そのシーズンの風景写真等を飾り、思い出作りの場となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や車椅子のスペース等利用者様の状態に合わせ、仲間同士で話はずむような環境にあり、心地良い空間となっている。食堂のテーブル席もご自分で出来る方や、介助が必要な方とのバランス等工夫して着席頂き常に楽しい雰囲気作りに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、担当職員とお部屋飾りを行っている。家族写真や誕生カード等で心なごんで頂けるように工夫している。馴染みの家具や、ご主人様のお位牌を安置され落ち着かされている利用者様もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の自室については、同じ造りであることから入口に表札とは別にマスコット等を吊り下げ迷わないように配慮している。段差のない建物内は、見守り、声掛け等で、ゆっくり移動出来ている。安全な環境づくりになっている。		